

2024年度 さめじまボンディングクリニック 第三者評価 結果報告書 <総評>

第三者評価結果の概要をお知らせ致します。

詳細につきましては、民間あっせん機関で保管している「評価結果報告書」でご覧頂けます。

評価機関名 : 株式会社IMSジャパン (指定番号 0102-01)

総評

<特に評価が高い点>

【1】乳児の虐待死防止など、明確な基本方針があり、それに沿った支援を非営利性を重視して社会的正義感で継続しています

基本方針に沿った支援を社会的正義感で継続し、乳児の虐待死を防止して子の幸せと、実母の心のケアを大切にしています。

そのため、出産前からの支援を必要とする「特定妊婦」を支え、予期しない妊娠をした中学・高校生等が一人で悩みを抱えることがないように、電話・メール・ラインで相談できる窓口を設けて、初回の相談、診察は無料としています。これらの相談先をリーフレットやSNSで周知するほか、新聞の取材を受けたり行政向けにセミナーも行ったりしています。また、啓発活動の講座を地域の高校にて行い、「包括的性教育」出前事業の案内を各校に配布するなど、乳児の虐待防止の観点で社会にメッセージを発信しています。

基本方針である、子の幸せを願い、こども家庭庁や自治体に財政支援、他機関との連携などの提言をし、過去には国への働きかけにより、民間養子縁組あっせん事業の配置職員が改正されました。産科を抱える当院は、妊娠中から特定妊婦の気持ちに寄り添う支援に努め、出産後に子どもと分離せずに実母が自分で養育するか、養子に託すべきかを十分に悩み考えられるよう耳を傾け意見を尊重しています。継続して支援子どもの1歳の誕生日を実母と職員と一緒に祝うなど、実母が生きる希望を見出して今後の人生を歩めるよう絆を大切にしています。

非営利性を重視してこれらの活動を熱心に継続しています。

【2】あんしん母と子の産婦人科連絡協議会（あんさん協）のネットワークを生かして広域性のある親選びを実施し、マッチングは外部の有識者を加えてさらに慎重におこなっています

養親候補者を選ぶ際は、専門的な知識及び技術に基づき、子どもの最善の利益を最大限に考慮しながら行うこととしています。自治体から里親として認定され登録していることが要件で、養親候補者との面談では、夫婦の養子縁組への足並みや体罰についての考えなど、多数の項目にて判断を行っています。養親候補者の居住地にも配慮しており、全国のネットワークで広域性のある選択を実施しています。2013年に当院が発起人となり「あんしん母と子の産婦人科連絡協議会（あんさん協）」を立ち上げて、北海道から九州の民間あっせん機関の産婦人科5施設と、養子縁組希望者の相談に応じる産婦人科19施設でネットワークが構築されています。

また、子どもの幸せのために養親候補者と子どものマッチングは特に重要であると捉えています。これまでも二次面接の外部の視点と共に、マッチング会議では院長・保育士の事務長・社会福祉士・看護師・公認心理師・助産師などが合意のもと決定していましたが、さらに養子縁組などに詳しい外部の有識者を2名加えて、より慎重に行っています。今後も、より多角的な視点を強化していきたいと考えており、外部に働きかけています。

【3】アメリカの養子家庭でのホームステイを実現させ、子どもたちは世界中に仲間がいることを体感し、未来への希望を見出しています

特別養子縁組で育つ子どもたちに、広い視野と多様な価値観を身につけて欲しいとの思いから、子ども・若者10人でアメリカの養子家庭でのホームステイ体験8日間を今年度実現しました。“養子大国”アメリカで自信と誇りを持って育てている仲間と交流し、日本で育つ子どもたちに意識の変革を促すことを目標とし、「スターキッズプロジェクト」を計画しました。子どもたちの費用は、クラウドファンディングで募り、責任者である院長と職員が同行しました。見ず知らずの愛あるたくさんの支援に感謝し、自分には特別な使命があることに気付いて欲しいと考え、あえてクラウドファンディングに頼りました。

世界の広さや養子縁組がオープンであること、世界中に仲間がいること、英語の習得などを体感した子どもたちは、ホームステイをきっかけに進路を見つめ直して行動に移したり、後輩の助けになるための意思を強く持ったりするなど、進路の可能性や夢を広げています。同時に、子どもたちの間で、養親や実母、クラウドファンディングの支援者、プロジェクトの企画者などへの感謝の気持ちが広がっています。当院では、助ける立場の子どもに育て、子どもたちが将来の養子縁組の旗頭となると信じています。今後、「スターキッズプロジェクト」を継続できるシステムを作りたいと考えています。

2024年度 さめじまボンディングクリニック 第三者評価 結果報告書 <総評>

第三者評価の受審情報

評価実施期間 契約日（開始日）	2024年6月4日（火）
評価実施期間 評価結果報告日	2025年1月29日（水）

総評

<改善が求められる点>

【1】 あっせん機関として将来にわたって永く事業を継続するための財源をどうするか、現実的な計画を立てて全ての関係者を安心させる必要があるように思います

当院が行う特別養子縁組事業は医療の一環として扱っていて、実親・養親候補者いずれからも謝礼や寄付金をとらないことを旨としています。非営利性を徹底して追及している点は素晴らしく、院長の信念を貫いた、正義感あふれるあっせん機関であると強く感じます。しかし、あっせん事業を行うにはそれなりに費用が必要で、医療の一環として取り扱うのも限界があるように思われます。あっせん事業は縁組が成立したら終わりではなく、そこから先も息の長い支援が必要で、その活動のための資金も蓄えておく必要があります。たとえ非営利事業であっても、事業にかかった人件費や諸費用を頂くことは許容されると考えますが、当院は一切の謝礼等を受け取らない方針を貫いており、その姿勢は大変崇高で感服に値します。一方で、あっせん機関として事業を継続するための財源をどうするか、現実的な計画を立てて事業の長期継続を望む全ての関係者を安心させる必要があるでしょう。

国や県に費用助成の働きかけをする一方で、企業や個人に関心を持ってもらい寄付してもらえそうな仕組みも作っていくとよいように思われます。例えば、企業であれば、生命保険会社やベビー用品メーカー、販売業者などとタイアップすることなどが可能かもしれません。個人に対しては、ホームページやメディア等を通して呼び掛けていくとよいでしょう。

それらを中長期的な計画として策定し、ホームページ等を通して積極的に公表し賛同者を増やしていくとよいように思われます。

【2】 あっせんにかかわる記録データの保管については、現在のサーバー保管に加え、複数の方法で保存することを検討するとよいでしょう

養子縁組あっせんにかかわる記録は、将来子どもが自らの出自を知るために重要な資料であり、慎重に保管・管理する必要があります。当院では、紙媒体の帳簿はキャビネットで施錠・保管し、電子媒体のデータについて院内にサーバーを設置して保管しています。

適切に保管していると言えますが、サーバーに不慮の事態が絶対に発生しないとは言い切れないところがあります。そのリスクに対応するため、できれば複数の方法で保存するのが理想的です。近年はクラウドシステムの信頼性が高くなっていて、これを利用するののも一考と考えます。セキュリティ面など信頼できるサービスを吟味し、データの保管先を増やすことを検討するとよいでしょう。

【3】 職員が何年目でどのような能力を身に付け、そのためにどのように育成していくか、人材育成の指針を整備し、実践していくとよいでしょう

あっせん事業を担う人材の育成については、外部研修に参加する機会を職員個々の状況に合わせて適宜つくっています。機関として積極的に研修に参加するよう促しています。しかし、実際の現場における実務能力を身に付けるには外部研修だけでは不十分で、内部における育成の体制の構築が重要と考えます。

例えば、経験年数等を基に、何年目職員はどのような能力を身に付ける必要があり、そのためにどのような方法で育成していくか、人材育成の指針を整備するとよいでしょう。1～2年目の職員向けには、OJTチェックリスト等を整備し、OJTによる指導体制をつくる必要があるでしょう。それ以降の職員については、個々の状況に合わせて個別の育成計画を立て、指導するとよいかもしれません。また、それぞれの職員が抱えるさまざまな案件に応じた指導として、スーパーバイズを受けられる体制をつくることも検討すべきと考えます。スーパーバイザーには、内部に適任者がいなければ、外部の専門家に委託して定期的に指導を受けられるようにするとよいでしょう。